



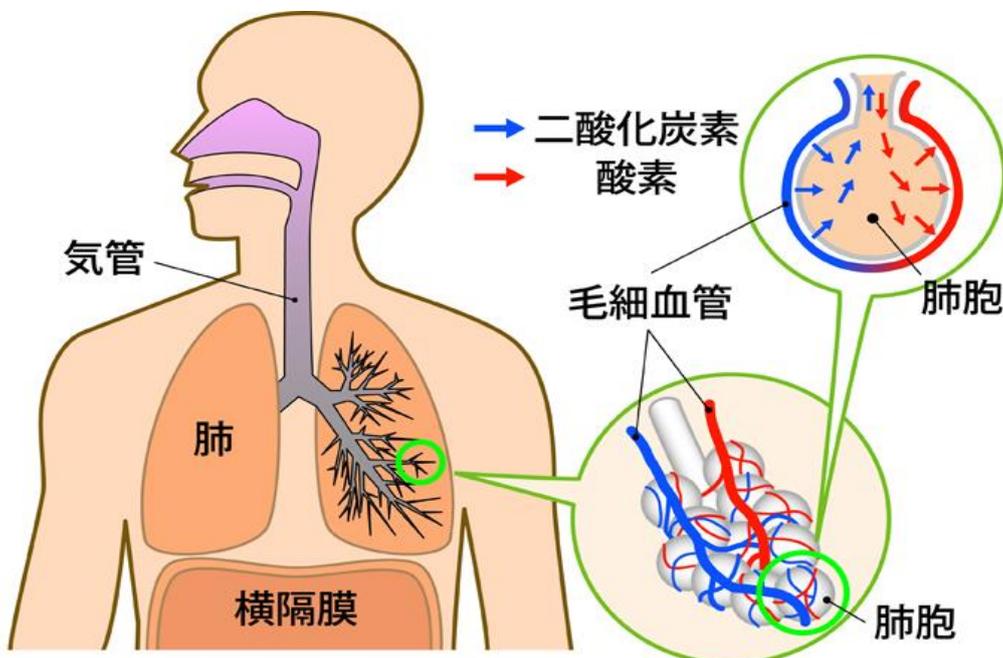
## 肺機能検査

皆さん肺機能検査を知っていますか。肺機能検査は健康診断や呼吸器疾患の診断など病院で行うことが多く、肺が正常に機能しているかを調べる検査です。今回はこの肺機能検査について詳しくご説明します。

### 肺の役割

肺は肺胞という小袋が集まって出来ています。口や鼻から吸った酸素は気管や気管支を通して充満されます。体で酸素が使われた後、肺胞では静脈血を動脈血に交換します。静脈血は酸素が体で使われ少なくなり二酸化炭素を多く含む血液です。動脈血は二酸化炭素が放出され酸素を多く含む血液です。

酸素と二酸化炭素の交換の事を呼吸と呼び、肺で行われている呼吸を外呼吸、体の隅々の細胞レベルで行われている呼吸を内呼吸と言います。肺は、この外呼吸を担当してる臓器です。



## 肺機能検査

呼吸の機能異常は、換気機能(気管から肺胞の空気の出入り)、肺の血液循環機能、肺胞内の酸素と二酸化炭素の交換機能、脳からの指令異常による肺の機能障害の4つに大きく分けられます。

そして肺機能検査は換気機能を調べるためにおこなう検査で、呼吸計(スパイロメーター)という機械を用いて呼吸の曲線を測定し検査をします。

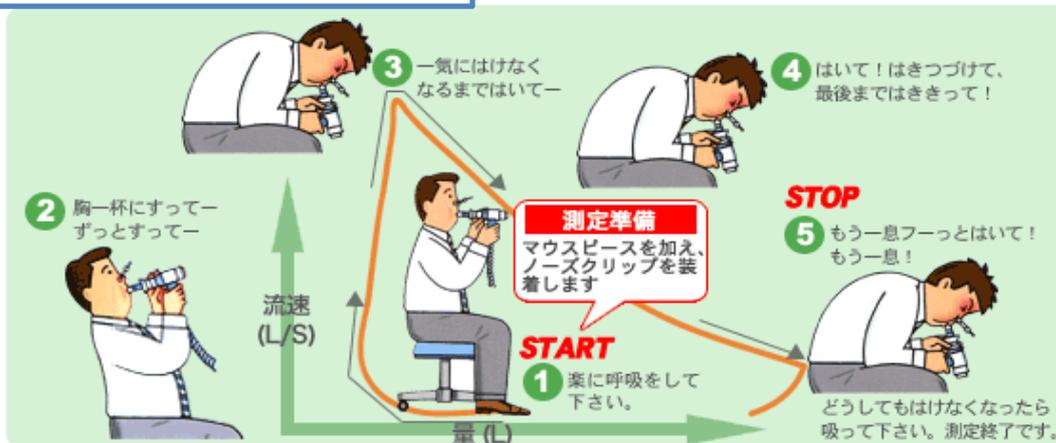
一般的に行われる肺機能検査は肺活量と努力肺活量があります。

### 肺活量検査方法



肺活量はどのくらい息を吸うことができるか調べる検査で、肺に入る呼吸量を調べます。性別・年齢・身長から標準値を求めていて、80%以上が正常とされます。

### 努力性肺活量検査方法



努力肺活量で1秒間で吐いた息の量を割合で算出します。この値を1秒率といい70%以上が正常とされます。

限界まで吸ったり吐いたりするので苦しく感じる検査です。検査の際は皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



検査について詳しく知りたい方は、医師にご相談ください。